

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273600260		
法人名	医療法人社団 千葉医心会		
事業所名	グループホーム スピリット		
所在地	270-1327 千葉県印西市大森2228-1		
自己評価作成日	2019(令和1)年9月12日	評価結果市町村受理日	令和元年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	令和元年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設の理念である「地域にだけ込んだ明るく家庭的な雰囲気を目指す」をモトに、ホームが利用者様にとって、第二の我が家になれるように日々努力しています。医療法人の利点を生かし、健康面のサポートも医師や看護師との連携がスムーズに行え安心して頂いています。同法人には様々な介護施設があり、利用者様のニーズに合ったサービスの提供ができます。そのような施設との交流もあり、行事やお祭りも開催されています。利用者様それぞれが生き生きと暮らしていくための個別ケアにも職員全員で取り組んでいます。地域のボランティアの方々の受け入れや、地元の幼稚園生との交流やご家族のご協力も得て、利用者様の生活が充実するように尚一層努力いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. JR木下駅から徒歩20分、長閑な緑地の一角に立地し、近くに運営母体の介護老人保健施設があります。自然環境に恵まれ、医療対応、研修、ボランティア受け入れ、ヴィラ祭り、消防訓練等、連携して効率的に運営しています。今回の台風15号では、他の系列施設で停電により体調不良に陥った人を母体施設でしばらく引き受けて回復させた事例があり、系列施設間で安心感があります。
2. 職員はほぼ定着し、家庭的な雰囲気の中利用者に寄り添ったサービスを実践しており、家族アンケートでも好評です。今年5月には入居15年を超える100歳の利用者を家族の要望で看取りを行い感謝されています。
3. 各種改善事例がある他、前回の外部評価の結果を受け作成した改善計画(1件)は大体計画を達成しており、サービス向上に熱心に取り組んでいる施設です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は「地域にとけ込んだ明るく家庭的な雰囲気を目指す」です。日常生活の中で、家事などを通して、実践出来るように努力しています。	地域密着性を織り込んだ理念をパンフレットに記載し、事務所やリビングに掲示しています。職員は毎月の職員会議時等で確認・共有し、日頃のサービスで既に実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方に来ていただいたり、市のクリーン活動に参加したり、近隣の幼稚園と交流させていただいています。また、町内会のお祭りや、毎朝の散歩の際に近隣の方々と会話をさせていただいています。	系列施設と合同で各種ボランティアの受け入れ、幼稚園との交流、ウイラ祭り(家族や地域の方に開放)開催を行っています。又RUN伴印西(市主催の認知症系啓蒙運動)に企画から参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症の理解をして頂く為、分かりやすい言葉や表現を用いたり、各利用者への個別ケアや日常生活の様子を報告を写真にして分かり易くしてお伝えしています。	(
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・町内会の方・市の職員・家族・本人を交えて色々な情報を交換して、サービスの向上につなげられるように努力しています。	会議は、2カ月毎に、市担当、町内会長、民生委員、家族(4名)、老人保健施設長、職員で開催しています。議題として、近況・活動報告、ヒヤリハット・事故報告、行事予定、身体拘束適正化委員会、今回の台風被災と対応状況等を話し合い、サービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	印西市介護相談員の受入れを月1回行っています。運営推進会議では、日々の状況報告、入退居の状況の報告等を行い、骨折事故等発生時は、報告書を速やかに提出し、再発防止のため助言を頂いています。	施設長は、必要の都度市担当に報告・相談しています。行政担当は、運営推進会議時に必ず出席してくれるので、情報や意見を貰い運営に役立てています。行政機関からの介助困難者の受入れ要請がありますが、現在は満室の為待機者扱いにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会、個別カンファレンスを行い、職員全員が身体拘束をしないケアを実践することができるよう、知識と技術を共有するよう努力をしています。3ヶ月ごとに身体拘束適正化委員会を開催し化事例ごとの適正化に努めています。	昨年10月から3カ月毎に、身体拘束適正化委員会を月例の学習会で実施し、内容を記録しています。安全対策の為、家族の了解の下、昼間も玄関は施錠していますが、職員は利用者の状況に合わせ、声かけや外に連れ出す等配慮しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月一回の勉強会や職員会議で虐待防止に関して全職員で話し合い、知識を共有、確認し、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業や制度についての勉強会を行い、施設内だけのサービスに留まらず、必要な際には関係者と連携し、活用ができるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時は十分な説明を行い、質問にも納得頂けるよう努めています。 契約内容変更の際には、書面でのお知らせと同時に、ご説明できる機会を設け、ご納得いただけるよう努力しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は、入居者の方やご家族の意見・不満・苦情に対して、常に耳を傾けると共に相談しやすい環境を作るように、困っていることは無いか声を掛けるように心掛けています	利用者からは日ごろ、家族からは訪問時、運営推進会議時、各種行事(ヴィラ祭り等)で、意見・要望を聞き、運営に反映させています。アンケートでも「よく話を聞いてくれ、柔軟に対応している。」と好評です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で、職員の意見・提案を元に話し合いを行い、運営に反映させています。各事業所管理者間でも毎月の会議にて情報交換や共通課題の問題解決策を話し合い、運営に反映させています。	施設長は、日頃からなんでも話し合える雰囲気を作り、年2回の個人面談、毎月の職員会議時に職員の意見を聞き、運営に反映させています。職員から、「働きやすい、気軽に意見を言える環境です。」との声も聞かれました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者の報告を受け、勤務状況を把握し、給与や労働時間等働きやすい職場の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での通常の勉強会や、系列施設の専門家による勉強会を開催しています。また、外部の研修にも積極的に参加できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は系列施設の管理者会議を開催し、グループホーム管理者は系列グループホーム管理者会議にも参加し、情報交換や共通課題への取り組みや解決策についての話し合いでサービス向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学の際にヒアリングをし、環境に関することや困っていること、気がかりなこと、要望をお伺いしています。入居以前の情報も関係者から聞き、入居後に本人が安心して過ごせる関係をつくれるよう努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、本人同様に家族からもご要望や不安、困っていること等をヒアリングをしています。また、電話相談でも詳しいお話をお伺いし、家族との信頼関係の構築にも努めています。	0		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に応じながら、生活面・健康面・経済面等を把握し、他の選択肢も含めた対応に努め、必要があれば、他のサービスを利用できるように、他施設の相談員とも連携が取れるように努めています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることを見極め、一方的な実施ではなく、寄り添いながら安心して家事などを行い、生活できる関係を作るよう心がけています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望を聞き、電話をしたり手紙を書いたりすることの支援に努めています。また、面会の要請もしています。かかりつけ医以外の病院への付き添いは家族が行います。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前に大事にされていたものや日常使用されていたものをそのまま自室で使用して頂き、安心感を持っていただけるようにしています。また、いつでも面会に来ていただける雰囲気づくりに努めています。		面会は自由で家族の都合で遅い時間になっても気兼ねなく訪れることができます。又ドライブに出かけて川や街並みを眺め、子供の頃の思い出を辿る等、利用者が懐かしい気持ちに触れられる支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を把握し、良好な関係が築けるようホールでの席を配置したり、掃除や食事準備等可能な片づけを声掛けし、協力しあう環境づくりに努めています。大きなトラブルにならないよう、常に皆様の様子に配慮しています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の施設にお伺いしたり、お電話にて生活の様子を伺い、必要に応じてサポートができるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接希望を伺ったり、何気ない会話を通して意向を引き出せるよう心がけています。困難な場合には生活歴や様子から思いを読み取り、ご家族から聞き取りをし、職員間で検討して入所者本位のケアができるよう努めています。	利用者の心身の様子を日々観察し、申し送り等で職員間で共有しています。体が傾きがちで普段と違うという気づきがあればより注意深く接しています。利用者の表情やしぐさから思いを汲み取るよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、以前に関係のあったサービス機関からの情報も参考にし、本人の生活スタイル、趣味や意向が汲みとれるように努めています。入居時には以前の元気に暮らしていた時の様子と最近の暮らしの様子も詳しく伺っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に入居者の状況や状態を把握することを心掛け、毎日の朝礼時に前日までのそれぞれの心身状態や留意点について検討し、対応を引き継ぐなどしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議や申し送り時を中心に課題とケアのあり方について意見交換をしています。ご家族には面会があった時等に意見を頂戴しています。以上の意見を反映し介護計画を作成しています。	入居前に家族や本人、在宅時の各サービス事業所、医療機関、ケアマネージャー等から情報を得ています。入居後1ヶ月の様子を見て、カンファレンスを行い、初回の介護計画を立てます。半年毎にモニタリングし、長期目標に合わせて計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は日々ケース記録や連絡ノートに毎日の様子や変化、共有事項を記録しています。それを職員間で共有し、日々のケアや介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族との会話を大切に、ニーズをくみ取るように心掛けています。頂いた要望にはできる限り対応できるよう、主治医、協力関係機関や系列施設も含めた他施設等を活かして支援に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎朝の散歩を通して地域の環境や四季を楽しんでもらったり、町内会のお祭りに参加し、地域の方々との関わりをもっています。また、ボランティアの大正琴の演奏や、地域の催し物に参加し、楽しみを持っていただけるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者がかかりつけ医の受診を希望、もしくは必要な場合には、速やかに受診ができるように支援しています。かかりつけ医とは迅速な連携が取れるよう日頃から関係構築に努めています。また、週1回の医師による回診も実施しています。	毎週訪問医が全員の健康をチェックしています。併設の老人保健施設の看護師もホームの利用者の状況をよく把握しており、相談したり、指示を仰ぐことができます。医療連携が取れているため、家族も職員も安心しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの向かいにある、同法人の介護老人保健施設の看護師兼GH総括部長に、毎日の情報交換と入居者の状態把握をして頂いています。必要時には来所して頂き、相談・看護をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の家族と十分な話し合いを行い、見舞いに行くなど、本人が安心して療養できるように努めています。入院中の状態を医師や相談員、家族と共有し、退院後に適切なケアが受けられるように支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて、本人、家族より重度化した場合や終末期のあり方について意向を聞き、方針を話し合っています。病状や身体・精神状態に変化のある場合はその都度説明をし、必要な際には医療関係者も含めて話し合い、意向に沿えるよう支援に取り組んでいます。	最近では1件看取りを行いました。重度化した場合には医師を交えて家族の意向を聞き、今後についての話し合いをしています。できるだけ意向に沿い、納得のいく最期を迎えられるよう努めています。	利用者の高齢化を視野に入れ、重度化した場合のホームの方針を早い時期に本人・家族に伝える等、終末期の対応についての仕組み作りが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療法人のメリットを活かし、すぐに医師や看護師と連携をとれる体制をとっています。また、職員も研修や勉強会にて知識を身に付け、慌てずに対応が出来るようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を選任するとともに、定期的に消防署の立ち合いも含めた訓練を行っています。運営推進会議には地域の方にご参加いただき、災害時に協力できるよう関係を築く努力をしています。	年2回(消防署立ち合い訓練、自主訓練)を実施しています。特に自主訓練は、運営推進会議の延長で地域の方も参加して行い、改善計画を大体達成しています。一連の防災装置・機器は完備し、7日分の備蓄の他、防災用品・生活用水を準備しています。	最近の各種災害発生を考え、関係者で話し合い、①年1回防災訓練を実施する事、②今回の大型台風による被災を考え、従来の災害用品の他に非常時電源確保を検討する事が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴時、居室入室時のノック等直接的なプライバシーを尊重すると共に、職員の何気ない言葉で傷付けることのないよう努めています。	トイレ誘導は小声で行い、ドアは閉める等、羞恥心に配慮しています。又利用者が不穏な時などは言葉かけを工夫して安心するよう支援しています。職員が冷静に利用者向き合い、気持ちに沿うよう努めている事が分かります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を聞いたり、様子を伺い、思いや希望を伝えやすい環境づくりを心掛け、職員全員で入居者の自己決定のサポートに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの趣味、嗜好、生活ペース等の把握に努め、楽しみを持ちながらくつろいだ居心地の良い生活が送れるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、おしゃれに無関心にならないように、声掛けし可能な方は自分で行ってもらうように努めています。またボランティアによるマニキュアや2ヶ月毎の訪問美容室でのヘアカットも皆さん喜んでくださっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に応じて、できる食事の準備や片づけをして頂いています。食事内容は四季を感じて楽しんでいただけるように心がけています。加齢による嚥下障害等にも留意し、適切で安心な食事形態の提供にも努めています。	半調理の食材を業者に依頼しており、利用者は盛り付けやテーブル拭き等できる事を行う他に、桜餅や月見団子などのおやつ作りを楽しんでいます。利用者の意見を反映して、パン食の日を設けているうえ、家族を交えて外食に行く事もあり、食事を楽しむ支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量と水分量の記録を実施し、脱水や低栄養の防止に努めています。日々の室温・湿度も考慮し、一人ひとりの状況に応じた水分摂取量や食事の形態、禁忌、嗜好、摂取力も踏まえ、総合的に支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に合わせて、毎食後の口腔ケアを実施・支援しています。職員全員で口腔ケアの重要性を共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、職員の都合での誘導ではなく、本人のリズムに合わせた事前の誘導ができるよう心がけています。日常的に排泄回数や状態を記録して把握しています。	2時間を目安にトイレ誘導していますが、個々のタイミングを把握して個別に対応しています。入居時にリハビリパンツだった人が布パンツに改善した例があり、排泄の自立に向けて適切に支援をしている事が分かります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩、体操等適度な運動や乳製品やきな粉の提供で便秘の予防し、お茶・コーヒー・紅茶など、飽きない工夫をして水分摂取もしていただいています。その上でも便秘がちな方には、医師に相談し、便秘薬の服用と指示をいただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全に入浴できる時間において、本人の希望を第一に考え、それに沿った入浴方法で支援しています。順番を忘れてしまう方もいるので、ボードに表示して認識してもらうよう工夫しています。	週2回のペースで主に午前中に入浴しています。安心して入浴し、湯船で十分リラックスできるよう心掛けています。拒否のある人には、うまく入浴できた日の成功例を職員間で共有し、声掛けやタイミングを工夫しています。又しょうぶ湯や柚子湯等で季節を感じられる支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩や掃除、レク、体操等で日中適度に身体を動かすことを心掛け、本人の生活リズムを尊重しながら、あまり早い時間に就寝しないよう呼びかけ、夜間に安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴、及び内服の方法、副作用について理解に努め、配薬について誤薬がないように職員2人以上で確認をしています。症状の変化を観察・確認し、重要な変化は必ず報告を行います。便秘薬のこまめな調整も実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者は主婦として家事をされてきた方たちなので、積極的に家事にかかわる役割を担って頂けるように支援をしています。また、行事やボランティアの方に来ていただき、おしゃれや歌などに触れ、交流ができる機会を設けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見・梨狩り・外出会の行事のほか、本人の希望に応じ、散歩や日光浴などの付き添い支援は日常的に実施しています。また、職員の外出時に同行して頂くこともあります。家族との外出支援もしています。	天気が良ければ毎日15～20分の散歩に出かけます。お花見や外食会などの年間行事で外出する他、個々の様子や状況に合わせてドライブに行ったり、職員と共に買い物に行ったりしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う喜びを感じて頂けるよう、家族と計画の上で、お買い物をしていただけるよう支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の支援は常に希望時に行っています。切手の提供、投函援助、電話の取次ぎも支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・食堂・居室に季節感のある飾りや行事の写真、お花を飾って明るさや季節感を取り入れています。また、毎日掃除と換気を入居者と職員で共同して行い、清潔で居心地の良い環境を保つよう心がけています。	リビング兼食堂は、明るく、清潔で、ゆったりしており(畳付きの空間あり)、温度・湿度も調整され、臭いもなく(空気清浄器の他、汚物処理も新聞紙・ビニール袋の2重巻き徹底)、居心地よく過ごせる様になっています。利用者は、各種体操(ラジオ・筋力・パタカラ等)、ぬり絵、日記書き、歌を歌う等、明るく過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの性格に合わせて食卓を気持ちよく過ごせるメンバー同士での配置をするよう考慮しています。自然とゆったり気持ちよく過ごすことができていると思います。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談し、馴染みのある家具や思い入れのある品を居室に置き、安心して、落ち着いて過ごせるように工夫しています。	居室は、エアコン・洗面台・クローゼット、ベッド・カーテン(前の利用者が置いて行った物)が備え付けで、清潔で、適度の広さもあり、利用者が快適に過ごせる様になっています。利用者は安心して、自分の家に居る様に過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が出来る限り自立した生活ができるよう、日常動作を中心に安全に十分注意し、手すりの設置や段差の撤去をしています。また、転倒防止用の靴を履いてもらうなど、一人ひとりの力を理解しつつ見守り、支援しています。		